



排水状況を見学する住民

『安八町民1千人が防災訓練！』 東海・東南海地震想定 官民連携し開催される



- 安八町は8月31日（日）、結小学校グラウンド（安八町西結）と同校体育館をメイン会場に、総合防災訓練を開き、国土交通省や消防、自治会関係者のほか、結地区の住民ら約1千人が参加した。訓練は、東海・東南海を震源とした地震が発生し、町内では震度6強を観測。家屋の倒壊や火災が続発し、今後も余震の恐れがあるなどの想定で14項目の訓練や体験を行った。

このうち、初期消火訓練では住民が協力してバケツリレーを行い、煙体験訓練では、スモークマシンでテント内を白煙で満たし、中をくぐり抜けながら煙の怖さを体験した。国土交通省木曽川上流河川事務所は、同校プールにおいて、排水ポンプ車による排水操作訓練を行い、住民自らが排水ポンプを水中に設置したり、排水を開始する起動ボタンを押すなどの体験を行った。



各種訓練の様子（写真左から、土のう作りによる水防訓練、初期消火訓練、煙体験訓練）



終了式で、堀正安八町長は「多くの皆さんに参加していただき、実のある訓練ができた。全国で想定を超える災害が続発しており、いつどこで起きてもおかしくはない。自分の命は自分で守る。自分たちの地域は自分たちで守るという「自助」「共助」が最も重要視され、これに、行政機関や消防団等による「公助」を加えた、3つの連携が大事になってくる。そのためには、一人ひとりが防災意識を高め、地域の防災力を高めることが重要。情報を共有して、自分たちのできる最善を尽くし、『災害に強いまちづくり』を目指していこう！」などと呼び掛けました。



陸上自衛隊による人命救出訓練

家屋や車両が炎上したことを想定し、安八町消防団による一斉放水訓練が行われると、参加者から大きな歓声が上ががり、一連の訓練を終えた。



安八町消防団による機動演習（一斉放水訓練）